



特技を活かして 地域社会に貢献 おもちゃ病院の誕生と成長の軌跡

- 目次 -

1. はじめに (退職後の暮らしかた)
2. おもちゃ病院活動の概要(5W1H)
活動紹介ビデオ 福岡県広報番組H25/2放映「フレッシュ福岡県」
<http://youtube/J0-HCC13.68>から抜粋 (約3分間)
この他に:J.COM H24/6放映「素敵シニアの自悠時間」
(<http://youtube/VojXDMq3dPo>) 約20分間 など
3. 活動理念とスタッフの構成
4. 成長の軌跡
5. 主な表彰受賞歴
6. 安定的成長の課題
7. むすび



(ドクター・ナース・マネージャー)



ボランティア団体 おもちゃ病院伊都国 連絡先:080-8390-8154



はじめに

退職後の暮らしかたの絞り込み

- 退職後の主な暮らしかた (1)決まったことは何もしていない(約7割)
(2)就労形:正規・非正規雇用・起業・シルバー労役など
(3)非就労自己満足形:趣味・娯楽三昧(ゴルフ・釣・観光・囲碁など)
(4)非就労社会奉仕形:地域の役職(保護司など)・ボランティア活動など



ボランティア活動

- (1)どんな分野の活動をするか? (2)一時的活動か/継続的活動か?
(3)既存のボランティア団体に参加するか/新たに始めるか?
(4)新たに始めるなら、1人でやるか/仲間を募ってやるか?

私の場合 (1)H16 65歳で退職、(2)H17に帰郷し、地域の役員・前原市審議会公募委員・KBCオーガスタのボランティア、ヤフトームのおもちゃ病院に参加→「糸島でもやってよ」に応じて団体設立を模索、(3)H19 前原市こどもフェスタに参加要請があり、仲間を募って団体設立・こどもファスタと並行して波多江公民館でスポット開設準備 → こどもファスタで手応え、波多江公民館でスポット開設



おもちゃ病院伊都国の5W1H

Who What Where when Why How

Who (誰が?)

会員登録している、シニア世代のおもちゃドクター・ナース・マネージャー 通常会員の9割が常時活動

What (何を?)

1. 壊れたおもちゃの無償修理
子どもの宝物や大人の思い出の品の修復
2. 小中学校でおもちゃ修理体験学習支援
自宅などから持ち寄った壊れたおもちゃを、自ら修理する体験学習の授業を支援
3. おもちゃのリユース支援
(1)「かえっこ」とのコラボレーション
(2)「おもちゃ箱」活動(使われなくなったおもちゃを、点検・整備して施設に寄贈)



H26年度福岡県地域づくり活動賞



おもちゃ修理体験学習



おもちゃ病院伊都国の5W1H

What Who Where When Why How

When・Where (いつ・どこで?)

活動地域: 主として糸島市・福岡市

1. 定期開設 年間18回
(1) 毎月第4土曜日;
子育て支援センターすくすく
(2) 奇数月第2土曜日; 波多江公民館
2. 出張開設: 年間約10回
(1) 文化祭などの公的イベントや諸施設の私的イベントでおもちゃ病院を開設
(2) 小中学校おもちゃ修理体験学習支援
(10年間に7校で16回開催)
(3) かえっこ×おもちゃ病院
(9年間に8イベント29回開催)





おもちゃ病院伊都国の5W1H

What Who Where When Why **How**

How (どのようにして?)

- (1) 修理受付 (カルテ作成)
- (2) 壊れたおもちゃを分解し乍ら、**構造と動作原理を理解し、故障原因を推定**
- (3) 試行テストで故障原因を確定
補修部品・材料を工夫して**修理作業**
再組立て **動作確認**
カルテ(診断書)記入 **引渡し**



持ち込まれるおもちゃは千差万別で、**技術資料や専用の補修部品は無いから、あり合わせの測定器や道具や材料を工夫しながら、知恵と手を出し合っ**て修理
修理不能の場合は、**修理用部品に活用**



おもちゃ病院伊都国の5W1H

What Who Where when **Why** How

Why (なぜ?)

- 1. **子育て支援**
(1) 物を大切にする優しい心を育てたい
(2) 修理作業を見せて好奇心を刺激し、**科学技術への関心を高めたい**
- 2. **環境意識(環境の3R(*))の啓発**
(1) 不要なおもちゃも、**捨てないで再使用に回せることを体験させたい(そのままリユース)**
(2) こわれても**捨てないで、何でも修理して使う習慣のきっかけにしたい(治してリユース)**
*: Reduce(ゴミの発生削減) Reuse(再使用) Recycle(再資源化)
- 3. **社会福祉支援**
児童福祉施設・高齢者福祉施設・障がい者施設の癒やし用おもちゃの修理や寄贈
- 4. **定年退職者の地域社会参加支援**
会社人間から社会人間へ 転進先の一つ



- 5. **スタッフの生きがいづくり**
(1) 成果が目に見える**達成感**
笑顔と驚嘆の声に、喜びと楽しさ
- (2) **おもちゃの構造への興味と、修理過程の思考錯誤・創意工夫・難題解決の楽しみ**
- (3) **スタッフの交流や相互啓発による向上・連帯感・楽しさ**
- (4) **特技を生かして、地域社会に貢献している達成感・充実感**
- (5) 度々の表彰に**自信と誇り**



おもちゃ病院伊都国の活動理念

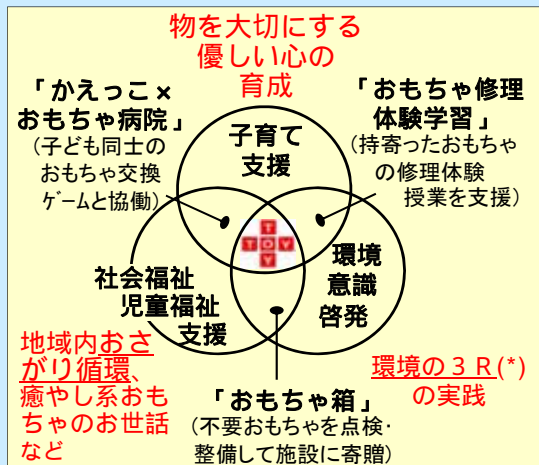
(理念があとからついてきた)

原点: 壊れたおもちゃを 子どもの目の前で修理



感謝される喜び
生き返ったおもちゃを
手にした時の
子ども達の笑顔が
生きがい

よかこと3本柱



よかこと3本柱 + 高齢者の生きがいづくり

*: 環境の3R; Reduce(ゴミの発生削減), Reuse(再使用), Recycle(再資源化)



スタッフの構成

仕事の内容と、横断的役割分担

	役割分担 (自己申告)
ドクター (男・女)	1. おもちゃの修理 (壊れたおもちゃの無償修理) (1) 予約受付と当日受付、(2) 故障原因追及と修理計画、(3) 修理部品・材料の準備と修理作業、(4) 動作確認と修理完了品の引き渡し
ナース (男・女)	2. おもちゃ修理体験学習 (小中学校の授業でおもちゃ修理体験を支援) (1) 学習の意義や内容の事前説明、(2) 持寄りおもちゃから教材選択、(3) 学習当日は 考えさせる・助言する・相談に乗る・教える・手助けする・褒める、(4) 教材外のおもちゃや修理未完おもちゃを修理して返却
マネージャー (男・女)	3. リユース支援 (不要おもちゃのお下がりが循環支援) (1) かえっこ×おもちゃ病院 子ども同士のおもちゃ交換ゲーム「かえっこ」とのコラボレーション (2) おもちゃ箱 不要おもちゃを引き取り、点検・整備して施設に寄贈
	団体活動全般に亘る PDCA(*)サイクルの推進 *: Plan(計画) → Do(実行) → Check(評価) → Act(改善)
	代表 副代表 企画渉外 情報 器材管理 リユース 会計庶務 受付



おもちゃ病院の誕生と成長の軌跡

スタッフの人数や開設回数の推移

- 1. おもちゃ病院活動の始まり P2(退職後の暮らしかた)
- 2. スタッフの人数や開設回数・定期開設場所の推移など

年目	年度	スタッフの人数	出張開設数	定期開設数・開設先・開設日				
				回数	波多江公民館	子育て支援センター		
誕生	0	H19	4名	2回	0	0		
成長	*2	1	H20	8名	4回	6回	奇数月第4(土)	0
	*3	2	H21	11名	9回	12回	奇数月第4(土)	偶数月第4(土)
成熟	*4	3	H22	12名	6回	18回	奇数月第2(土)	毎月第4(土)
	*5	4	H23	13名	12回	18回	奇数月第2(土)	毎月第4(土)
	5~10	H24~29	23~27名	9~13回	18回	奇数月第2(土)	毎月第4(土)	

*2:かえっこ×おもちゃ病院開始、*3:おもちゃ修理体験学習開始、公的表彰初受賞、市民提案型町づくり事業採択、*4:工作室開設、*5:ナース6名体制 → リユース係新設、おもちゃ箱活動開始



主な表彰受賞歴

幅広い活動が評価されて数々の受賞

年目	年度	受賞内容
*3	H22	福岡県 市民教育賞 (地域社会教育賞)
5	H24	福岡県 ふくおか共助社会づくり表彰 (地域貢献活動部門賞) 糸島市 元気高齢者表彰 (3名)
6	H25	朝日新聞社 朝日のびのび教育賞 (おもちゃ修理体験学習他) 福岡県 「70歳現役社会づくり」施策の規範に採択
7	H26	福岡県 ふくおか地域づくり活動賞 糸島市 社会福祉大会表彰 (優秀賞) 糸島市 元気高齢者表彰 (4名)
9	H28	環境大臣表彰 (循環型社会形成推進功労者)
10	H29	糸島市 地域活動振興奨励者表彰 (表彰式: 11月3日)

*:石の上にも3年! 継続は力なり
表彰受賞は公的評価の証で、会員の自信と誇りにつながる
表彰受賞が行政機関に知れ渡り、大新聞やTVの紹介急増で知名度上昇



糸島市地域活動振興奨励者顕彰受賞

広報いとしまH29年10月15日号 P3



参考
広報いとしま
H29年2月1日号
でも7頁に亘って
詳細に紹介



壊れたおもちゃの無償修理、小中学生への修理体験学習支援、施設へのおもちゃ寄贈



安定的成長の課題

経営資源(ヒト・モノ・カネ)の充実

- ・人材の確保: (1)来る者は拒まず(お試し体験) → 多彩(才)な人材、(2)相互啓発・情報共有・合議制で一体感・信頼感/全員参加の役割分担で存在感、(3)新たな生きがいを見出して定着 (就労・介護・子育て・高齢化などによる自然減は適切規模に補充)
- ・仕組み作り: (1)設備や備品の整備(看板・ユニフォーム・プロジェクター・工作室・倉庫など)、(2)使用頻度の高い部品・材料や特殊な工具は常備して共用 (通常使用工具は、会員手持ちの使い慣れた工具)
- ・公式化推進: (1)ロゴマーク、会則制定、団体登録、(2)情報発信、(NPO法人化は見送り)
- ・活動資金の確保: (1)最初は自己資金、(2)活動拡大と共にサンキュー募金・寄付金・補助金/助成金・賞金・謝金・会員の会費 (実態は自転車操業)

